

## 指定校推薦・公募推薦 校内基準

### 《指定校推薦》

#### ■応募資格，および選考方法

応募資格	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 当該の学校が定めている基準（成績，出欠席，人物評価等）を満たしている。</li><li>・ 3 年間の欠席の合計が 15 日以内を目安とする。</li><li>・ 3 年間の遅刻・早退の合計が 30 日以内である。</li><li>・ 3 年間の欠課時数の合計が 100 回以内である。</li><li>・ 懲戒処分を受けていない。</li></ul> <p>※ 長期の通院や入院等により上記基準を超えた者で，現在健康上支障がない者は，指定校推薦選考会議にて審議の上，適否を決定する。</p> <p>※ 専門学校については欠席数に若干の幅を持たせる（選考会議にて審議）。</p>
選考方法	<p>評定平均，模擬試験成績，出欠席の結果を考慮し決定する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 基本的に評定平均を第一に考え，あまり差がない場合に模擬試験の結果等を考慮する。</li><li>・ 実技を重視する美術系の学校は美術の専門科目の成績も考慮する。</li></ul>

#### ■エントリーからセクション会議までの選考の流れ

##### 〈事前準備：進路指導〉

進路指導の指定校推薦係（コンピューター係）は，担任がセクション会議へのエントリーができるようデータベースに推薦枠を登録し，登録が完了した時点で希望者の担任に知らせる。

##### 〈エントリー：生徒〉

- ・ 応募を希望する生徒は，セクション会議ごとに指定された締め切りまでに「推薦願い及び誓約書」（指定用紙）を提出する。
- ・ セクション会議で推薦者として内定した場合，原則として辞退はできない。したがって，専願を前提とする総合型選抜入試や公募推薦に応募している生徒はエントリーできない。
- ・ セクション会議で推薦者として内定した後に欠席日数が規定を超えるなど応募資格を満たさない状況になった場合，当該校への出願前の場合は内定取り消しとなる。出願後の場合は職員会議に諮り，その後の対応を決定する。

##### 〈エントリー：担任〉

- ① 希望する生徒の保護者に「推薦願い及び誓約書」（指定用紙）を提出させる。
- ② 各セクション会議のエントリー締め切りまでに「指定校推薦」データベースへエントリーの情報を入力する。
  - ・ エントリー前に推薦条件を満たしているか必ず募集要項で確認する。

- ・ エントリーは、セレクション会議当日の **10:00:00** までに「確定」ボタンを押したものを受理する。
- ・ エントリー締め切り前であれば、エントリーを変更または取り下げる事ができる。
- ・ エントリーの情報は全担任が閲覧できる。
- ・ セレクション会議で推薦者として内定した場合、原則として辞退はできない。したがって、専願を前提とする総合型選抜入試や公募推薦に応募している生徒はエントリーできない旨を確認する。
- ・ セレクション会議で推薦者として内定した後に欠席日数が規定を超えるなど応募資格を満たさない状況になった場合、当該校への出願前の場合は内定取り消しとなる。欠席日数が多いなど注意が必要な生徒には、その旨を事前に確認・説明する。

③ セレクション会議の結果を生徒、保護者へ連絡する。

### 〈セレクション会議〉

セレクション会議にて、推薦者として内定する生徒を選出する。その後、内定者を対象に校長面接が実施され、面接の結果をもって、推薦の可否が決定される。

セレクション会議	出席者
第1回セレクション	進路指導主任，進路指導学年チーフおよび推薦担当者， 3 学年主任，推薦希望者のクラス担任
第2回セレクション	進路指導主任，進路指導学年チーフおよび推薦担当者， 3 学年主任，推薦希望者のクラス担任
第3回以降の セレクション	進路指導学年チーフおよび推薦担当者， 3 学年主任，推薦希望者のクラス担任

- ・ セレクション会議の進行および内定者の最終決定は進路指導主任が行う。決定にあたっては、当該担任団や学年主任の意見を集約し、議論を経たうえで行うものとする。
- ・ セレクション会議前に、当該担任団で事前調整を行うものとする。
- ・ 推薦希望者のクラス担任は、当該生徒が希望する大学の出願条件および生徒のクリア状況を説明できるよう準備しておく。

### ■コースによる優先枠について

原則として

- ・ 学部・学科の優先枠は3年次にて「一般入試の主な受験科目」を履修している者に与えるものとする。詳細は次項を参照のこと。
- ・ 理系学部，学科の募集枠については国公立 TG 理系・国公立 AG 理系・数理 AG（理科選択）を優先とする。
- ・ 文系学部，学科の募集枠については国公立 TG 文系・国公立 AG 文系・文系 TG・文系 AG・数理 AG（国語選択）を優先とする。
- ・ 文理融合型の学部，学科の募集枠については文系，理系コースの差は無いものとする。
- ・ 国公立 TG コース・国公立 AG コース・文系 TG コース・文系 AG コース・数理 AG コースの間での優先順位はない。
- ・ 進学後の修学を考慮して評定の差が少ない場合には模擬試験成績等も考慮して判断する。
- ・ その他、本校で所属コースを指定する募集枠がある。詳細については担任に確認のこと。

## ■「一般入試の主な受験科目」について

「一般入試」とは当該学部・学科において、主要な入試形式・日程のことを指す。したがって、共通テスト利用入試や全学部入試、後期(3月)入試などは、これに該当しない。

### 〈主な受験科目といえるケース〉

#### ① 受験科目別の募集定員がないケース

受験科目は、国語(現代文のみ)、英語、数学 or 地歴 の 3 科目

#### ② 受験科目別の募集定員があるケース

A 方式(250 名) 国語(現代文のみ)・数学(IAIIB)・英語 の 3 科目

B 方式(250 名) 国語(現代文のみ)・地歴・英語 の 3 科目

→この場合、理系コースは A 方式の受験科目、文系コースは B 方式の受験科目を 3 年次に履修するため、コースや文理による優先順位に差はない。

### 〈主な受験科目といえないケース〉

A 日程(450 名) 国語(現代文のみ)・英語・地歴 の 3 科目

B 日程(50 名) 国語(現代文のみ)・英語・数学(IAIIB) の 3 科目

→この場合、B 日程の募集定員は A 日程に比べて極端に少ないため、B 日程の受験科目は主な受験科目とはいえない。ただし、最も定員の多い受験パターン(1/3 以上の定員が設定されている場合は、主な受験科目といえるものとする。この例の場合は、3 年次にて地歴を履修している生徒が優先される。

## ■指定校推薦特別枠について

以下の指定校推薦については、通常の指定校推薦とは異なり、評定平均 4.7 以上を校内エントリーの要件とする。模擬試験成績を中心に、出欠状況を含め総合的に判断して推薦者を決定する。

模擬試験成績については、高 3 進研模試(総合学力記述模試)4 月回、7 月回の 2 回の模試の、英国社(文系)または英数理(理系)の偏差値の平均を基本の判断材料とし、必要であればその他の模試の成績も考慮する。

早稲田大学 文化構想学部、文学部、商学部(文系)

※商のみ英国社/英数国型

上智大学 理工学部 情報理工学科(理系)

## ■推薦対象に内定した生徒への指導について

- ・ セレクション会議で推薦者として内定した生徒は校長面接を実施し、認められた場合に推薦者として出願することができる。
- ・ 校長面接と並行して出願書類を準備する。出願書類は担任を通して生徒へ配布する。**原則として担任が指導**し、生徒本人が出願手続きをする。ただし、学校毎に一括出願をするよう指定されている大学については進路指導が取りまとめて出願する。
- ・ 面接練習等は**まずは担任が実施する**。その後、必要であれば 3 学年の教員を中心に面接練習の指導を行う。
- ・ 実際に受験したことを本人に確認する。問題があった場合はすぐに 3 学年主任、進路指導へ報告する。

- ・ 合格した後も勉強を継続するよう指導する。原則として共通テストを受験させる。
- ・ 受験後は速やかに「受験報告書（ベネッセの書式）」を提出させる。

### 《指定校推薦以外の公募推薦》

公募推薦入試等において，推薦者数に制限がある募集枠への出願は指定校推薦同様に学内でセレクションを実施するものとする。人数制限を超えて競合した場合の選考方法は原則として指定校推薦と同じとし，評定・出欠席・模試成績(実技等も含む)を総合判断して，過去に学則処分を受けていない生徒を優先することとする。

応募資格	四年制大学，短期大学 ・ 当該の学校が定めている基準（成績，出欠席，人物評価等）を満たしている。	専門学校 ・ 当該の学校が定めている基準（成績，出欠席，人物評価等）を満たしている。
注意事項	・ 専願を条件とする四年制大学，短期大学へ出願した場合は，不合格にならない限り他の専願を条件とする学校への出願はできない。不合格が確定した時点で他の専願を条件とする学校への出願が認められる。 ・ 専願を条件とする四年制大学，短期大学を第一希望とし，併願を認める四年制大学，短期大学を併願する場合は担任に確認をとった上で出願を可とする。なお，専願を条件とする大学に合格した場合は，併願先の大学へは辞退手続きをとるものとする。	